

組織体制

所長

大窪 健之 理工学部 都市システム工学科 教授 文化遺産防災学

副所長

谷口 仁士 立命館グローバル・イノベーション
研究機構 教授 地震工学

中谷 友樹 文学部 人文学科 教授 地理情報科学

研究メンバー(五十音順)

青柳 憲昌 理工学部 建築都市デザイン学科 講師 文化遺産保存修復
 泉 知論 理工学部 電子情報工学科 准教授 計算機システム
 板谷 直子 衣笠総合研究機構 准教授 文化遺産防災学・都市計画学
 伊津野 和行 理工学部 都市システム工学科 教授 耐震工学
 小川 圭一 理工学部 都市システム工学科 准教授 交通管理計画
 片平 博文 文学部 人文学科 教授 歴史地理学
 鐘ヶ江 秀彦 政策科学部 政策科学科 教授 計画理論
 川合 誠 情報理工学部 教授 情報通信
 情報コミュニケーション学科
 河角 龍典 文学部 人文学科 准教授 地理学
 里深 好文 理工学部 都市システム工学科 教授 河川災害
 ジグヤス ロヒト 衣笠総合研究機構 教授 文化遺産防災学
 鈴木 祥之 衣笠総合研究機構 教授 耐震工学
 高橋 学 文学部 人文学科 教授 環境考古学
 武田 史朗 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授 ランドスケープ
 塚口 博司 理工学部 都市システム工学科 教授 交通計画
 土岐 憲三 衣笠総合研究機構 教授 文化遺産防災学・地震工学
 豊田 祐輔 政策科学部 政策科学科 准教授 防災まちづくり
 林 倫子 理工学部 都市システム工学科 助教 景観工学
 平尾 和洋 理工学部 建築都市デザイン学科 教授 都市計画・建築計画
 深川 良一 理工学部 都市システム工学科 教授 地盤工学
 福水 洋平 理工学部 電子情報工学科 准教授 知能情報学・システム工学
 向坊 恭介 理工学部 建築都市デザイン学科 助教 耐震工学
 矢野 桂司 文学部 人文学科 教授 地理情報科学
 山内 寛紀 理工学部 電子情報工学科 教授 自動画像認識
 山崎 有恒 文学部 人文学科 教授 河川改良史
 山田 悟史 理工学部 建築都市デザイン学科 助教 都市計画・建築計画
 吉越 昭久 文学部 人文学科 教授 歴史地理学
 吉富 信太 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授 建築構造学
 冷泉 為人 衣笠総合研究機構 教授 日本美術史
 金 玖淑 衣笠総合研究機構 専門研究員
 崔 明姫 衣笠総合研究機構 専門研究員

【研究部会】

歴史都市防災研究所は文化遺産の宝庫とも言うべき京都において、芸術と文化の保全とそれを支えるコミュニティを含めた災害対策とを一体の物として捉える「文化遺産防災学」の教育・研究拠点をめし、以下の6つの研究部会およびプログラムにおいて、災害科学、土木工学、建築学、情報学、政策科学、歴史地理学など、文理を連携させた研究活動を推進している。

①文化遺産防災技術研究部会

文化遺産とその周辺地域の火災、地震、地滑り、洪水など、主に自然災害の危険性に対して、立地条件、地理的、地質的条件などに応じたリスクの同定手法や災害の抑止・予測手法を確立し、これらのハザードに対する強靱性を高めるための技法を開発する。

②歴史災害研究部会

歴史災害のデータベース化、およびGISを援用した地図化などを通じた史資料のアーカイブ化、これを活用した歴史災害の復原による過去の減災の知恵を精査し、現代の最新技術の援用により、現代に活かすことができる知恵への応用とその有効性の検証を行う。

③歴史都市防災計画研究部会

文化遺産を核とした周辺地域の防災環境整備へ向けて歴史都市の防災計画の策定を行う。計画実施に必要な要件や評価手法を確立し、文化遺産を守り活用する歴史防災まちづくりを実現するための研究を推進する。

④文化遺産における人災・獣害研究部会

深刻な被害が報告されている美術工芸品の盗難、歴史的建造物への放火などの人災や、近年多発傾向にあるアライグマなどの獣害から文化遺産を防御するための、社会的な枠組みや技術を開発する。

⑤歴史都市・文化遺産の継承と保全のための政策研究部会

世界遺産を始めとする文化遺産の観光と防災とを両立させるための政策に関する研究を推進するとともに、文化遺産の保全・継承のための政策、予算計画ならびに寄付拡大のための方策に関する研究を実施する。

⑥国際展開・社会連携研究支援プログラム

京都をフィールドとした文化遺産の防災に関わる国際的な研修事業を中心に、世界各国での文化遺産の防災に関わる研修事業の支援を行う。また、GIS技術を援用した文化遺産防災情報の国際的共有手法の開発、歴史都市および文化遺産の災害とその対策に関する情報アーカイブの構築を行う。

また、今年度は私立大学等経常費補助金特別補助「研究施設運営支援」により、上記の研究部会における研究活動に加え、より発展的な研究プロジェクトを推進した。

それらの研究成果については、本報告書の第4章に掲載する。